

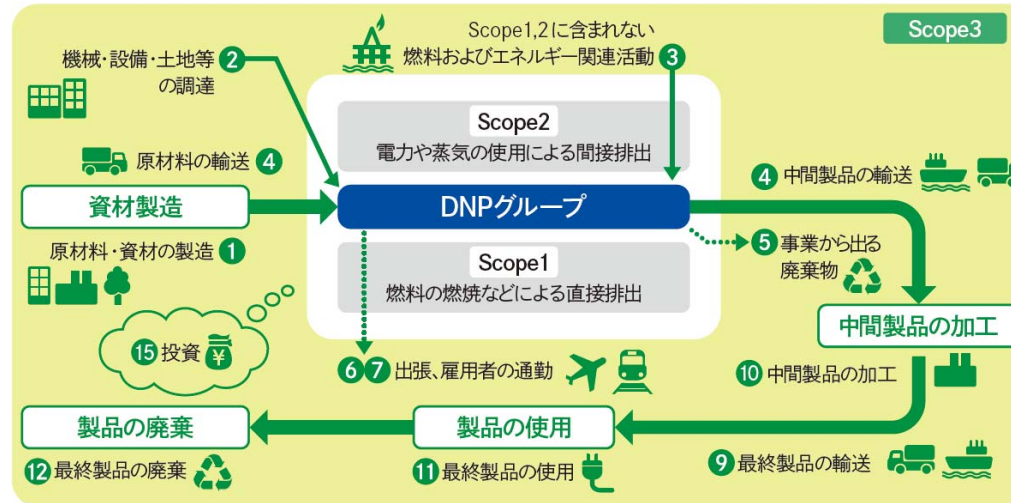
# 1

# 大日本印刷株式会社

## 各社の考え方

### ① 算定を行う 背景・目的

サプライチェーン全体でのGHG排出量管理イメージ



- 製品のライフサイクル全体でのGHG排出量の削減が重要と考え、自社製造段階だけでなく、間接的に排出するサプライチェーン全体でのGHG排出量 (Scope3) を算定し、削減対策を実施することで、2010年度から毎年削減している。
- この取り組みは事業活動全般の把握が重要となるため、2014年からは海外を含めたDNPグループ全体に算定範囲を拡大した。
- 算定結果をもとに、サプライチェーン全体での排出量削減に向けた取り組みを推進していく。

### ② 算定結果の 活用方法

- 海外を含めたDNPグループサプライチェーン全体の排出量について、一定の算定方法を確立することにより、経年的な排出量の増減を定量的に確認する。
- 多岐に渡る物品の取扱いに関連して、サプライチェーンを通じた排出量の算定方法を習得し、物量データ等をデータベース化する。
- サプライチェーンを通じた排出量集計を、細分化することで、製品群別、得意先別、製品別 (カーボン・フットプリント) のデータ集計を行い、得意先からの開示要求に対応する。

## 2

## 大日本印刷株式会社

	各社の考え方
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上記活用方法を通じて、削減ポテンシャルの明確化、算定手法の洗練化、得意先の開示要求への対応等が可能になる。</li> </ul>
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>● データを全社の関連部署、関連会社から集め、環境部門で算定を実施。</li> <li>● データ収集元は、購買部門(カテゴリ1, 4)、経理部門(カテゴリ2)、環境部門(カテゴリ3, 4, 5)、労務部門(カテゴリ6, 7)、管理部門(カテゴリ9, 11, 12)、関連会社(カテゴリ15)である。</li> </ul>
⑤ サプライチェーン排出量の削減に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グリーン購入の推進、環境配慮製品の開発・販売、また荷主としての輸送の効率化等を通じて削減を図っている。</li> <li>● カテゴリ1「原材料・資材の調達」段階の排出量が全体の50%以上と多いため、引き続き削減に向けた取り組みを進めていく。</li> </ul>
⑥ サプライチェーン排出量算定の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● DNPグループの製品は中間製品が多く、下流の販売した最終製品の使用段階(カテゴリ11)の算定が困難であるため、DNPグループが国内で製造したPETボトル(プリフォーム)使用時のエネルギー(ペットボトルに加工され、飲料として売られたものが冷却される際に使用されるエネルギー)のみを対象とした。</li> <li>● 他の部品の加工・使用については、完成製品全体に占める重量が小さい、または加工・使用の際のエネルギー使用がないため、算定対象外とした。</li> </ul>
⑦ その他(任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 算定の妥当性・透明性を担保するため、第三者検証を取得している。</li> </ul>

## 3

## 大日本印刷株式会社

カテゴリ	算定方法	※算定対象期間：2019年4月～2020年3月
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 原材料・資材購入量(重量、金額) (重量>金額の優先順位で把握)	● CFP基本・利用可能DB ● 3EID (CFP>3EIDで利用)
カテゴリ2「資本財」	● 土地・建物や機械器具の取得金額	● 3EID
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 燃料、電気、蒸気のエネルギー使用量	● 原単位DB* ● CFP基本DB(海外)
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	● 荷主輸送分のトンキロ、サプライヤ輸送分の推定トンキロ(※) (※積載量、積載率、輸送距離についてシナリオを設定し、購入重量に基づきトンキロを推計。購入重量が判らないものは、判明しているものの単位金額当たりの重量を利用し、購入金額より重量を推計。)	● CFP基本DB
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物の種類別・処理方法別の重量	● 原単位DB*
カテゴリ6「出張」	● 出張・近隣移動の推定旅費(※)、交通費支給額、宿泊日数 (※移動手段別に代表的経路をシナリオ設定し、利用回数から算出)	● 原単位DB*
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 通勤手段別の支給金額	● 原単位DB*
カテゴリ8「リース資産(上流)」	● リース資産で使用したエネルギー使用量(Scope1・2内で算定)	● -
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	● 紙製印刷物等5製品種別の推定輸送トンキロ(※)、販売容量、販売額 (※CFP制度のPCRに基づき、算定対象種類毎にシナリオを設定)	● CFP基本DB
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 販売した製品の加工なし、又は最終製品の構成割合が微小なため、算定対象外	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 国内におけるPET飲料の冷蔵の推定使用電力量(※PCRに基づき推定)	● CFP基本DB
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 紙製印刷物等5製品種別の処理方法別廃棄物排出量(※PCRに基づき推定)	● CFP基本・利用可能DB
カテゴリ13「リース資産(下流)」	● 該当する活動がないため算定対象外	
カテゴリ14「フランチャイズ」		
カテゴリ15「投資」	● 関連会社(持分法適用)のGHG排出量	
「その他」	● オプションカテゴリであるため、算定に含めない	

# 4

# 大日本印刷株式会社

## サプライチェーン排出量算定結果

● 海外を含むDNPグループサプライチェーン全体のGHG排出量

